

このHKデザインアワードNEWSは、本アワードの審査会などについてレポートするものです
発行:HKデザインアワード事務局

第2回審査委員会

一次審査（書類審査）

日時：2025年10月7日（火）

会場：日鉄鋼板株式会社北海道支店

参加者：

審査委員長

松島潤平

【北海道大学大学院工学研究院准教授】

審査委員

大塚正樹

【日鉄鋼板株式会社北海道製造所所長】

小西彦仁

【(公社)日本建築家協会(JIA)副会長兼北海道支部長】

川島隆司

【北海道板金工業組合理事長】

佐藤圭

【三木佐藤アーキ】

酒井秀治

【北海道教育大学岩見沢校准教授】

事務局

弘田亨一

【実行委員長/(公社)日本建築家協会(JIA)北海道支部】

小倉寛征

【(公社)日本建築家協会(JIA)北海道支部】

佐藤正人

【日鉄鋼板株式会社北海道支店】

記録

登尾未佳

一次審査で6作品が選出

7回目を迎えた「HKデザインアワード」の一次審査が2025年10月7日（火）に開催されました。約3ヶ月の応募期間を経て集まったのは、23作品。今回も丁寧にかつ慎重な審議が行われ、二次審査に進む作品が選ばれました。審査会の経過と結果をお知らせします。



●審査委員全員で1作品ごとに確認し予備投票へ

まずは審査委員全員で、提出書類・プレゼンテーションパネルを順に確認するところからスタート。今回も、住宅、商業施設、社屋、工場、公共施設、スポーツ施設、教会、インテリア、改修事例など多岐にわたる作品の応募がありました。松島審査委員長からは、今回はテーマに「〜とともにある鉄」を掲げているが、選考の一つの手掛かりであって、必ずしもそれに即していることだけが論点になるのではなく、「議論の定点になれば」という意向が伝えられ、1作品ずつ特徴や論点になりそうな事柄の共有が行われました。

そして、審査開始。最初に一人5票を投じる予備投票が行われ、各審査委員から選定理由が述べられました。バリエーションを意識した選定や、鉄の扱い方への評価、設計手法や施工の観点、街との関わり方、周囲の風景との関係性、とにかく実際に見てみたいといった理由から、票が入ったのは12作品。このうち4票以上を獲得したのは4作品で、それらについては異論なく一次審査通過が決定しました。

●慎重な選考の結果、現地審査に進むのは6作品に

続いて、予備投票の獲得数が3票以下の8作品に対して審議が進むことになりました。また、議論の中で、一次審査通過作品は現地審査となる二次審査に進むと同時に、前回までと同様に入賞作品となることも確認されました。その上で、選考は慎重に行われました。議論が収束しにくい場面では、類似する特徴をもつ作品ごとに各審査基準に立ち返り、より洗練度の高いものや新規性がみられるものを評価することや、建物規模や鉄の使用量に囚われずに「今後の鉄の可能性を拡張し得るもの」を選考するための活発な意見交換が行われました。

そして最終的に、次の6作品が一次審査を通過、入賞となりました。

— 一次審査通過（二次審査対象・入賞）作品 —

中山 眞琴/市隠/①

千葉 拓也、高嶋 一穂/狸上るビル/②

山本 郁江、住谷 素子、垣田 淳/れんがの家/③

出口 亮、渡邊 竜一、池邊 慎一郎/新札幌アクティブリンク/④

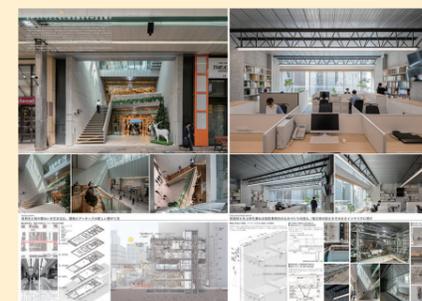
菊池 規雄、高橋 幸宏、山脇 克彦/奥尻町総合庁舎/⑤

宮城島 崇人/地と橋/⑥

【設計者名/作品名/画像番号】(応募順、敬称略)



①



②



③



④



⑤



⑥

以上、間口の広いテーマ設定でもあったことから、規模や用途のバリエーションが豊富な作品が揃いました。賞を決定するための現地審査は11月中の開催を予定しています。



審査基準

鉄の使用によって、以下のいずれかあるいは複数の項目に該当する作品を評価します。

- ・優れた景観形成に寄与する外観をもっている
- ・建築内部または周囲に優れた空間や領域を形成している
- ・独自性・新規制・将来性のある鉄材の利用をしている。
- ・鉄の特性や経年変化を活かした造形・表情を提案している
- ・鉄が他素材や人・環境・時間等との新たな関係を導き出している

